

BINGO JIBAYAN

備後の地場産業



母なる芦田川

中国山地に源をなす芦田川は蛇行しながら支流を合し、盆地をつくり、大地を潤し、東西に連なる山並の一か所を断って福山平野へ流れ出て、工業地帯の形状を促し、波静かな瀬戸内海の中央にと注ぐ。

流域は古くから多くの歴史を秘めている。

芦田川に育まれた文明はゆたかである。

備後は農耕社会を経て工業化社会へ。

さらに情報化社会へ。

21世紀社会のユートピアは芦田川の恩恵とともに。

一般財団法人 備後地域地場産業振興センター

〔構成団体〕

- 広島県
- 福山市・府中市
- 福山商工会議所・府中商工会議所
神辺町商工会・福山あしな商工会・福山北商工会
- 広島県織物構造改善(工)・備後緋(協)
広島県アパレル工業組合・福山婦人子供服工業(協)
広島県輸出縫製品工業(協)
広島県織染工業(協)・府中家具工業(協)
福山地方木工(協)・松永家具工業(協)
広島県はきもの(協)・松永木ヒール工業(協)
広島県天然木化粧合板工業(協)・靱鉄鋼(協)連合会
広島県東部機械金属工業(協)・福山地方鑄造工業(協)
府中機械工業(協)・(協)福山鉄工センター・
福山邦楽器製造業(協)・府中桐箱(協)
広島県菌業協会・広島県東部菓子商工業(協)
府中味噌協同組合





備後の産業から何かが起こる — 地場産業振興

あいさつ

山陽路の中心地備後地域は、古くから文化が開け、長い伝統と歴史に育まれてきた繊維・木工・機械金属・食品などの地場産業が多様に展開し、極めて高い集積を示して地域経済の発展に重要な役割を果たしております。

技術革新が急テンポで進み、先端技術産業が脚光を浴びている今日、一方ではこうした地域経済の担い手である各種の地場産業のさらなる飛躍が期待されているところです。

また、経済のグローバル化の進展により新たな社会経済システムへの取り組みが求められるなか、企業経営者は新技術の開発や新分野の開拓に積極的に取り組むなど、時代を先取りした経営により、常に企業・産業の発展を図る必要があります。

開発・情報・交流・研修・展示などの幅広い機能を持つ当センターは、平成24年4月1日新たな財団として一般財団法人に移行しました。引き続き豊かで活力ある地域づくり、産業の調和ある発展のためのシンボル施設として、皆様方と相携え、たゆみない地場産業振興事業を展開し、地域産業の新たな発展をめざしたいと考えております。

今後とも、広く皆様にご活用いただきますようお願い申し上げます。

一般財団法人 備後地域地場産業振興センター

理事長 佐藤彰三

副理事長 松浦良彦

●施設の内容

所在地 ●福山市東深津町3丁目2番13号

構造 ●鉄骨鉄筋コンクリート造4階建（1部5階建PH付）

敷地面積 ●1,500㎡

建物面積 ●2,652.30㎡

- 1階 636.41㎡ 常設展示場・事務室・福山市産業支援コーディネート室他
- 2階 565.82㎡ 展示室・マイコン研修室・デザイン研究開発室・情報交流懇談室・相談室
- 3階 628.48㎡ 中会議室・小会議室・経営研修室・技術研修室他
- 4階 625.97㎡ 展示室兼大会議室・教養室他
- 5階 157.08㎡ 機械室他
- その他 38.54㎡ 自転車置場他
- 駐車場 120台収容



業務概要

●新商品・新技術開発のために

商品開発のための実習、研修会を実施します。また、消費・需要の多様化、高度化に対応できるデザイン、新商品・新技術開発等のための研究・研修会も行います。

●需要開拓として

地場製品の常設展示、見本市等を開催し、地場産業関係者、地元消費者のみならず広くこれらの製品の優秀性をPRするとともに、それぞれのニーズに応じた地場製品の展示・即売を行います。

●人材養成のために

地場企業経営者並びにその従業員のために専門講師による研修会等を行い、総合的な人材養成を促進します。

●情報収集・提供として

新商品・デザイン開発や新技術の研究導入をより的確に行えるように、各公的機関・各センターとの連携を深め、広く需要動向、開発動向、新生産技術の研究動向などの情報収集、集積、提供を行います。

●福利厚生のために

中小企業に働く勤労者と事業主の方々を対象に、大企業並みの福利厚生事業（福祉共済事業）を、国・自治体の支援・指導により実施運営しております。

●コミュニティの場として

センターを利用される各業界の交流や、情報交換、憩いの場として利用できます。

●会議・展示会の場として

各種会議室、展示場を用意しております。目的にあわせてご利用ください。また、各種産業情報をとり揃えております。お気軽にご利用ください。

センターは開発・情報・交流の源だ！



芦田の流れのほitori、輝しき未来を。

福山市

●面積／518.11km² ●人口／466,550人 ●世帯数／190,863世帯 (2012年1月末現在)

●役所の所在地／〒720-8501 福山市東桜町3番5号

●産業振興の所属部局／経済環境局経済部商工課

TEL. (084) 928-1039 ・ FAX. (084) 928-1733

URL. <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>

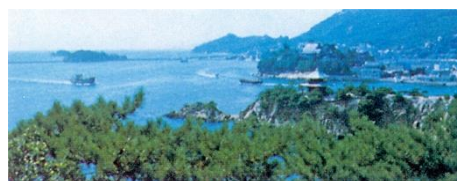
●歴史／福山は、備後十萬石の城下町として芦田川のデルタに誕生し、大正5年に市制を施行しました。以来合併等により市域を拡大するとともに、臨海工業都市化を進め、平成10年には中核市へ移行するなど瀬戸内の経済・文化・交通の要衝の都市として発展しています。

●産業／鉄鋼を中心とした重工業と伝統に支えられた地場産業により発展してきましたが、近年は電子産業や独自の技術力を生かした企業の伸長などにより、加工組立型産業に徐々に変化し、今後の地域の発展を担うことが期待されています。

●観光／福山駅から望まれる福山城。その周辺には美術館・博物館などの文化施設が集まり、市民の憩いの場となっています。また、国宝明王院、瀬戸内の景勝鞆の浦、下駄の街松永のはきもの博物館、国特別史跡の廉塾、溪谷美を誇る山野峡など、歴史と自然に恵まれた観光地があります。5月には市内のばらが咲き乱れ、ばら公園を中心に「福山ばら祭り」が華やかに開催されます。



福山城



鞆の浦

府中市

●面積／195.71km² ●人口／43,428人 ●世帯数／17,504世帯 (2012年2月1日現在)

●役所の所在地／〒726-8601 府中市府川町315

●産業振興の所属部局／まちづくり部産業活性課

TEL. (0847) 43-7190 ・ FAX. (0847) 46-3450

URL. <http://www.city.fuchu.hiroshima.jp/>

●主な地場産業／木製家具・桐箱・合板・繊維・縫製・機械金属・味噌

●歴史／律令時代の頃より、近畿と北九州・山陽と山陰を結ぶ交通の要衝であり、備後の政治、経済、文化の中心でした。

●産業／・府中タンス・は今から、300年前頃から製作され、家具や桐箱、天然合板など、伝統と手造りの業を、製作者の信条として、日本一の名声を博している。また、藩政時代から綿花栽培が盛んで、繊維工業の発展とともに、日本三大緋のひとつ、備後緋の生産地となり、機械金属工業や府中味噌などにおいても驚異的な発展をとげてきました。

●観光／何でも願いごとを叶えてくれると言われる首無地蔵は、年間40万人もの参拝者があり、芦田川清流の河佐峡、サツキの安楽寺、天然のウォーターライダー三郎の滝、昔の面影を残す白壁の町並み（上下町）、アジサイの神宮寺、10万本のアヤマが咲き競う四季の里など、数多くの観光地に恵まれ、歴史と観光と産業が、うまく調和されています。



首無地蔵



白壁の町並み（上下町）

繊細な手造り品から、明日の産業を担う備後の繊維産業。

備後織物

●広島県織物構造改善工業組合

事務局 〒720-0804 福山市緑町1-20
TEL. (084) 922-1022 FAX. (084) 922-1108

広島県の織物業は県の東部一帯（福山市・府中市）に集中し、いわゆる「備後機業地」を形成しています。

この地方は古くから織物がさかんで、江戸時代、藩主水野公の奨励によって棉の栽培と縮木綿の製織が盛んでした。

産地として発展したのは明治中期以降のことで、この頃になると業界の組織化も進んで、明治23年には備後織物同業組合が組織され、以来今日の「広島県織物構造改善工業組合」に至るまで、100有余年の歴史を有しています。

現在、この産地では藍染めの技術を活かした綿デニムを中心に、綿白生地、合織織物を生産しており、特に綿デニムは全国の50%のシェアを占め、日本一のデニム産地として発展しております。



備後絰

●備後絰協同組合

事務局 〒729-3103 福山市新市町新市434-2
TEL. (0847) 52-3017 FAX. (0847) 52-3017
URL. <http://www.city.kasuri.or.jp>

備後絰は、江戸時代の末、福山市芦田町に住む富田久三郎氏が、麦藁屋根の押し鉾竹がすすで汚れて自と黒とに染っているのにヒントを得、木綿糸をつむぎ、手で括り、正藍で染めて、絰織物を作ったのが始まりで、今からおよそ160年前、文久絰と名付けて販売されました。

明治初年には品質も改良され、当時その美しさ、珍しさは多くの人々の注目を浴び、備後絰の名称で大阪をはじめ全国に販路を広げることができました。

時の流れの中にあって、絰の単純素朴な色彩、デザインは常に新しい息吹きを感じさせ、素材も綿等で、今日では和服に限らず、気軽に着れる洋服の素材としても利用されています。



被服

●広島県アパレル工業組合

事務局 〒729-3103 福山市新市町新市31-1
TEL. (0847) 52-3344 FAX. (0847) 52-3343
URL. <http://e-fuku.info/>

福山市新市地区に足踏みミシンが導入されたのが始まりで、昭和10年頃から生活様式が、変化するにつれて、洋服の需要が高まるなかで、業者が急増するとともに、動力ミシンの普及により縫製業としての産地が形成されました。

戦時中、厳格な規格を要求される軍服を生産したことが、今日、ワーキングウェアの生産額では、全国の50%以上を占める一大産地に成長した土台となっております。

現在では、カジュアルウェアやジーンズ、婦人服、子供服など多種・多様なアイテムの衣服が生産され、全国でも有数のアパレル産地となっております。

今日、広島県のアパレル業界は、新商品開発・販路開拓やグローバル化への対応など課題が山積しておりますが、他産地に負けない競争力を身に付け、更に大きく飛躍しようとしております。



縫製品

●広島県輸出縫製品工業協同組合

事務局 〒720-0812 福山市霞町二丁目7番5号
TEL. (084) 973-3453 FAX. (084) 973-3454

輸出縫製業は昭和30年、1ドルブラウスブームが到来して大口注文が殺到したため、内需品メーカーが輸出向け縫製品を手掛けたのが始まりです。

以来、対米向け輸出は順調に推移して参りましたが、昭和60年のG5(先進5ヶ国蔵相会議)を機にドル高是正が行われ、円高に歯止めがきかなくなり、対米向けの商談は一気に減少してしまいました。

この時を境に組合員企業は、内需向けに転換し協同研究を重ねながら、今日では国内の一流ブランドを扱うメーカーに成長致しております。

また、衣料品全般にわたって当組合で生産することができますので、アパレル業界から注目を集めています。



織物染色

●広島県織染工業協同組合

事務局 721-0953 福山市一文字町6-1
TEL. (084) 953-2828 FAX. (084) 953-0330

染色整理は緋用の糸を染色する緋糸染、緋以外の一般糸染、布の染色加工をする布染整理、布の仕上加工の織物整理に大別されます。

糸染は緋の発生とともに起り、昔は専ら織布工場の一工程として行われ、織物業の発展につれ分業化されてきました。

染色業は明治末期に出現し、専門者の増加がみられたのは大正中期以降のことで、大正末期に至り、はじめて自生地浸染、捺染する布染が開始され、以来、染色技術の向上と相まって布染は急速に普及しました。

昭和に入り商社からの受注が増大し、これを機に綿織物を主体とした布染が盛んとなり、戦後は新素材の開発にあわせて新技術の導入が行われ、その製品は高級品として好評を得ており、アフリカ、インド等輸出向け製品及び内需向け製品として伸展しています。



婦人子供服

●福山婦人子供服工業協同組合

事務局 〒720-0061 福山市丸の内2-7-3
TEL. (084) 923-3419 FAX. (084) 923-3419



新しい生活道具への発想、人間性豊かな家具木工産業。

家具

●府中家具工業協同組合

事務局 〒726-0012 府中市中須町1648
TEL. (0847) 45-5029 FAX. (0847) 45-8832
URL. <http://www.fuchu.or.jp/~kagu>

「府中家具」は300年の歴史と伝統に培われた全国有数の高級家具の産地です。

宝永年間（1700年頃）に内山田三氏が大阪から箆笥の製法技術を学び帰ったのが始まりと記されています。

大正時代になると職人数も増え、市内鶴飼町には百数十軒もの箆笥職人が軒を連ね、ノミやカンナを使う音が絶えなかったと云います。

戦後いち早く協同組合が結成され、デザイン、塗装、加工技術の研究開発に努め、全国に先駆けて婚礼家具セットを開発するとともに、全国規模のコンクールで連続してトップ賞を獲得するなど、府中家具の名は全国にとどろき、飛躍的に販路が拡大しました。

今日では、婚礼家具の他にリビング、ダイニング向けの家具にも力を注ぐとともに、高度な木工技術を生かして取り付け家具や内装ドアなど住宅内装工事の分野へも進出を図り、「総合インテリア産地」の形成をめざしています。



●福山地方木工協同組合

事務局 〒721-0957 福山市箕島町字須脇東端484-1 常盤家具製作所内
TEL. (084) 953-1892 FAX. (084) 954-4986

木製家具製造業が一大産地を形成している備後地方においても、業界は、昭和30年代大量移出時代を牽引した婚礼家具業者グループと、特殊技能を生かした別注家具グループとにわかれて、それぞれ発展してきました。

戦後、受注生産方式をもとに出発したこの業界は、その生いたちの段階から卸機能が一部においては存在し、この卸機能と多数の優秀な木工技術者の存在が相まって、容易に高級家具製造業へ転換しました。

その後、急速に広まった生活様式の洋風化、個性化は、高級家具の需要増大をもたらし、伝統的な技術をもとに作られた製品は、その品質の優秀さで好評を得ており、今日、備後の家具業界の一翼を担うまでに発展しています。



●松永家具工業協同組合

事務局 〒729-0104 福山市松永町4-2-6
TEL. (084) 933-5888 FAX. (084) 933-4905

松永地域においては、古くから木工技能の向上に対する需要が旺盛で、昭和の初期には既に木工専門学校が設立され、地域をあげて技術力の向上が図られ、これが今日の松永家具発展の基礎となっています。

昭和30年代に入って、新鋭機械の導入、輸送機関の発達等により、地域需要から広域商品化へと脱皮を図り、量産方式を確立しました。

現在、優秀な技術力と優良原木を使用した高品質の製品は、流通業者、消費者の好評を得ており、製品種類も婚礼家具だけでなく応接セット、書棚、民芸家具等、多品種にわたる家具産地として発展しています。



はきもの

●広島県はきもの協同組合

事務局 〒729-0105 福山市南松永町3-1-59
TEL. (084) 934-3322 FAX. (084) 934-3323
URL. <http://www.e-hakimono.com>

はきもの産業の発祥の地「松永」。明治11年、塩を焚く材木に目をつけ、桐に似た安価な雑木下駄の製造が始まりました。

明治40年頃には、機械化に成功し大量生産の基礎が作られ、大正・昭和初期の不況にも耐え抜いて全国一の木履産地となりました。昭和30年代中頃からサンダル・スリッパが、それぞれ下駄製造のノウハウを生かし、はきもの全体への展開を図りスタートを切りました。

こうして「松永」は昭和40年代には、はきもの総合産地として拡大を進め、現在では、個性化にすばやく対応し、消費者のニーズに合った、はきものを築きあげました。「松永」が『はきもの里』といわれる由縁です。

今後、はきものは将来にわたり世界の人々に心のゆとりと夢をあたえるでしょう。



木ヒール

●松永木ヒール工業協同組合

事務局 〒729-0114 福山市柳津町4-10-10 (株)ドイモク内
TEL. (084) 934-3030 FAX. (084) 934-6350

我が国の木ヒールの製造は、昭和22年頃、阪神地方のゴム工場でビニール靴が考案され、このヒール（かかと）として使用されたことに始まります。

松永地域は明治の末期から下駄の産地として栄えており、その端材が材料として利用できることから、木ヒール産業が発展してきました。昭和30年以降、ビニール靴が履物市場においてケミカルシューズとして流行するに及んで、端材利用だけでは需要に応じきれなくなり、原木から大量生産する方式へと転換されました。

その後、ゴム靴、皮靴等にも使用され始め、高度な技術と生産能力をもって優れた製品ができるようになり、現在では全国第一位の生産地となっています。



天然木化粧合板

●広島県天然木化粧合板工業協同組合

事務局 〒726-0013 府中市高木町235 唐川木材工業株式会社内
TEL. (0847) 45-4600 FAX. (0847) 45-6845

備後地方における天然木化粧合板の製造は、戦後東京方面によりツキ板を導入しラジオのキャビネット用化粧合板を作ったのが始まりです。その後、当地方に古い歴史をもつ収納家具の表面材として使用され、その美しさから好評を呼びました。

そして、接着技術、塗装等の合板製造技術も次々と研究改善され、家具の生産量の増大と相まって急速に発展し、優良原木の選択使用と高度な接着技術によって、その製品の優秀さは全国的に知られるようになりました。

近年は、建築用の化粧合板や不燃壁、装飾用の金属化粧板の貼り付けなど引合いがあるなど全国有数の産地として発展しています。



古代よりのたたら文化の継承、地場産業の礎、鉄鋼産業。

造船・滑車・シャックル・錨・シャーリング・建築用金物

● 鞆鉄鋼協同組合連合会

事務局 〒720-0202 所在地福山市鞆町後地26-91

TEL. (084) 982-3375 FAX. (084) 982-3377

URL. <http://tomo-tkr.jp>

鞆の鉄鋼業は鞆鍛冶（刀工）を発祥としており、時代の変遷により、刀鍛冶の生産は船具、農具へと移り、明治には軌条用品が新品目に加わりました。

大正年間には、鍛工品向素材（角鋼）が造られて伸鉄の誕生を迎えました。続いて平鋼、丸鋼、異形棒鋼が生産され、第二次大戦後は、鉄筋ビル建設用資材としてその需要が急伸し、昭和43年に船具、建築金物、機械部品等の二次製品業界とともに「鞆鉄鋼団地」の造成を完了しました。

昭和50年代より、伸鉄の生産は海外へシフトが進み、当連合会でも伸鉄業を営む組合員は激減しています。

現在、組合員は歴史ある鍛冶製品からコンピュータ制御による機械加工まで、非常に幅広い分野で活動しています。



機械金属工業製品

● 広島県東部機械金属工業協同組合

事務局 〒720-0067 福山市西町2-10-1 福山商工会議所ビル内

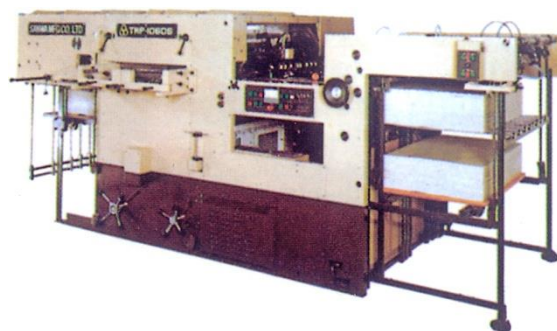
TEL. (084) 922-1414 FAX. (084) 932-2364

URL. <http://www.kikaikin.jp/>

備後地方の機械金属工業は、古くから（文化13年頃）鋳造業が発達し、この鋳造業の発展とともに繊維機械、農機具、木工製材機械、工作機械、食品加工機械等の製造も盛んになりました。昭和13年頃には、製縄機・木工機械の生産額が全国の70%を占めていたと言われています。

現在、備後地方には、輸送用機械器具製造業（自動車、船舶など）一般産業用機械器具製造業、電気機械器具製造業、鉄鋼業、金属製品製造業など機械金属関連のあらゆる業種が産地を形成しており、我が国経済の高度成長とともに発展し、高度加工技術も飛躍的進歩を遂げております。

これらの企業の中には、大企業の協力会社も少なくありませんが、独自の技術力をもって大企業と競いながら、自社製品を生産、販売している企業や、海外に生産、販売拠点を置いて国際舞台で活躍している企業も数多くあります。



鋳物製品

● 福山地方鋳造工業協同組合

事務局 〒721-0961 福山市明神町2-6-6

TEL. (084) 931-0890 FAX. (084) 931-0890

福山地方鋳造工業協同組合の源を見ると、その歴史は古く、大正9年に10数社で、福山鉄工組合を設立、備後に於ける業界発展の基礎を築いた。

昭和24年に中小企業組合法により、尾道・福山・三原・深安・芦品を統括して福山地方鋳造工業協同組合を設立した。昭和39年には、組合員18社、生産量1万トン、売上金額7億円余で、優秀な技術による製品は、福山の鋳物として全国に知れ渡った。

平成19年には、組合員13社で、生産量3.5万トン、売上金額73億円と大幅に発展している。

グローバル化の現在、健全な取引慣行で共存共栄、高度な技能・技術で製品力を高め、攻めの経営、息の長い人材育成・人材確保で更なる発展を計っている。



工作機械

●府中機械工業協同組合

事務局 〒726-0013 府中市高木町669 旭スチール工業(株)内
TEL. (0847) 45-3660 FAX. (0847) 45-5284

農産物の集散地であった府中地方では、古くから周辺一帯の農業に必要な農機具及び小道具の製造が行われていました。

また、これらの集散物を加工する繊維、木工、食品などの工業も派生し、必然的にこれらの工業に関連する機械工業が芽ばえることとなりました。

明治初期には鋳造所・鉄工所が誕生し、大正から昭和初期にかけては、専門工場も続々と創業され今日の基盤が形成され、第二次大戦中は軍需により著しい発展を遂げました。

戦後、大手企業の発展とともに協力関連工場も伸展し、現在では工作機械、産業用機械が盛んに製造され、国内はもとより広く海外にまで輸出されています。



シャーリング・機械・製缶・鋳造

●協同組合 福山鉄工センター

事務局 〒720-0017 福山市千田町4-14-18
TEL. (084) 955-1311 FAX. (084) 955-1310
Email. fts13m@urban.ne.jp
URL. <http://www.urban.ne.jp/home/fts13m/>

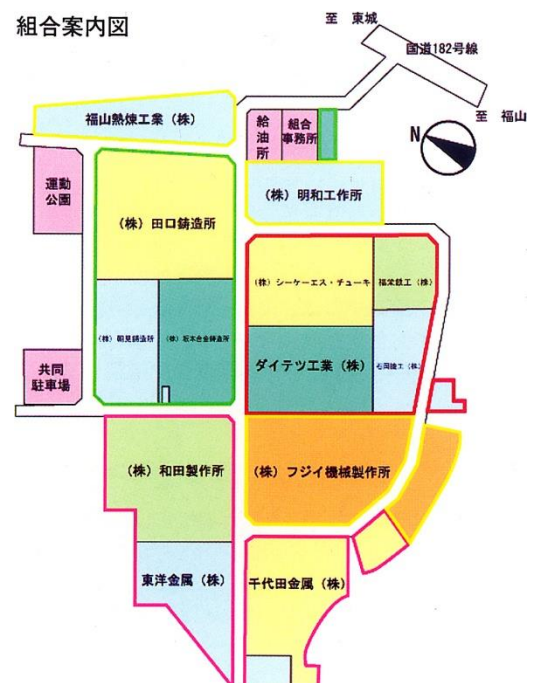
当組合は、広島県東部機械金属協同組合の組合企業が業務の拡大、公害防止などを目的に工場の集団化を計画し、昭和42年設立されました。そして、昭和45年には福山駅より北東約7km、山陽高速道路福山東インターより約2kmという物流交通に恵まれた当地に内陸部工業団地を建設し、昭和46年5月より全社操業を始めました。

以来、当初の日本経済は成長課程にありましたが、その後オイルショック、円高不況、バブル崩壊、そしてリーマンショックによる世界同時不況の到来、併せて昨年の未曾有の東日本大震災、原発問題などにより、日本経済はますます深刻化を深めてまいりました。

このような厳しい経済情勢を乗り越えるために、組合員が一致団結して取り組んでまいりついでございます。

また、今日の経済環境が目まぐるしく変化する中であって、私たちは長期的な展望のもとに、如何なる環境の変化にも対応できる近代的で合理性のある組合を目指し、組合員相互の信頼と綿密な連携を図りながら、地域社会の繁栄に貢献するべく鋭意努力してまいりついでございます。

組合案内図



人々に喜びをひろげる瀬戸内の産品、備後の地場伝統産業。

琴

●福山邦楽器製造業協同組合

事務局 〒720-0031 福山市三吉町3-2-8 小川楽器製造㈱内
TEL. (084) 924-1150 FAX. (084) 922-0119
URL. <http://www.fukuyamakoto.or.jp/>

福山地方は、古くから琴、三絃、尺八が盛んであり、葛原勾当をはじめ吉沢検校など優れた琴の演奏者を輩出し、また数多くの琴職人もいたといわれています。

江戸末期の嘉永年間(1850年頃)、菅波甚七氏が福山琴の製造技術、技法を確立したといわれています。以来、その技術が受け継がれ、明治末期には、伝統の技法を生かしながら作業工程を改善して分業化を進め、より精緻な製造技法が確立され、今日における福山の琴づくりの基礎がつけられました。

福山琴は熟練した琴職人の手作業で丹念に仕上げられます。全国生産量の70%を占め、楽器として初めて伝統的工芸品に指定されると共に、地域団体商標(地域ブランド)に登録されました。



桐箱

●府中桐箱協同組合

事務局 〒726-0003 府中市元町445-1 府中商工会議所内
TEL. (0847) 45-8200 FAX. (0847) 45-5110

江戸末期、桐タンスや桐下駄の産地であった府中地方で、桐端材を利用して婦人用の船枕を製造したのが、府中桐箱のはじまりです。

明治初期、浦上利右衛門氏が京阪神から結納箱、従軍記章箱等の注文を得て生産の増大を図り、明治後半には桐箱の優雅さと防湿特性が広く認められて、府中の特産として確固たる地位を築き、大正から昭和初期にかけて、業界の組織化などその育成発展の努力が行われました。

戦後は、技術改良、流れ作業による大量生産方式も進み、全国の百貨店に販路の開拓を行い呉服、貴金属、掛軸等を入れる箱として、また贈答用の箱として盛んに使用されました。

近年では、中国製品との競争になっておりますが、品質の高さで新しい需要の開拓に取り組んでおります。



い草製品

●広島県藺業協会

事務局 〒729-0111 福山市今津町3-2-10
TEL. (084) 933-2004 FAX. (084) 933-2004

備後表は天文年間(約450年前)、沼隈町山南地方に野生していた藺草を水田に栽培し、これを製織したものが始まりと言われており、慶長年間(約400年前)、藩の産業として奨励されたため、備後表産地としての基盤が形成されました。

藩政時代を通じて実施された公用表の検査制度は、明治以降も検査制度として引き継がれ、組合を設立して畳表に証糸を織り込むなど、品質保証に努めた結果が今日の隆盛の基礎をなしています。

表皮が厚く、粒揃、光沢がある上、青味を帯びた銀白色の美しい藺草を厳選して使用した当地の畳表は、全国的に名声を博しており、「備後表」の名称で広く愛用されています。



菓子

●広島県東部菓子商工業協同組合

事務局 〒729-0114 福山市東深津町3-19-3 松浦食品(株)内
TEL. (084) 921-7920 FAX. (084) 921-7920

備後地方は、中国地方屈指の菓子所として広く知られており、その歴史は古く、明治の初め既に菓子業組合が存在しています。その後、主原料である砂糖の輸入増大に伴い地場産業として確固たる地位を占め、明治40年頃には「唐松」、「木の葉」、「アラレ吹寄」といった菓子が四国、山陰地方に盛んに移出されました。

戦時中、生産活動が一時中断したものの、戦後は砂糖の輸入が増大するとともに再び活発となり、生産技術の向上と相まって飛躍的に発展しています。

製品は和洋生菓子、煎餅、焼菓子を主体としていますが、消費者嗜好の変化に対応して多様な品種の菓子類が製造されて、消費者の好評を得ています。



府中味噌

●府中味噌協同組合

事務局 〒726-0005 府中市府中町638 金光味噌(株)内
TEL. (0847) 41-2080 FAX. (0847) 43-6769

農産物の集散地であった府中地方では、遠く元和年間（1616年頃）から、芦田川流域の良質米と県北の白芽大豆を原料とした白味噌の自家製造が盛んであります。

当地方は、交通の要衝であったことから、山陽路の名産として買われ、さらには備後特産の緋、畳表等の取引に付随した贈答用に使用され、全国的に広まったといわれています。

以来、温暖な気候風土、良質の原料、醸造用水などの恵まれた立地条件と、優秀な技術者の研さんにより、独特な風味の味噌が造られ順調に発展してきました。

最近では、健康食品として脚光を浴びており、とりわけ、四季のめぐみを受け長期間発酵熟成された甘口系を主体とする「府中みそ」は、全国で愛用されています。



新たな時代に先端技術を求めて。

地域に根ざした地場産業がさらに発展し、また新産業を開拓していくためには、新たな時代に対応した先端技術などの新しい技術の会得、蓄積が重要であります。

エレクトロニクス、光通信、新素材、バイオテクノロジーなどを軸とする技術革新は、著しい進歩を見せております。域内には技術開発及び工程が世界最高水準にある鉄鋼を始め、電機・電子・化学・機械などの大企業は、集積した技術を軸として、新製品の開発、新分野への展開を急速に進めております。また、中堅企業の多くは特異の技術力をもって成長を続けており、さらにベンチャービジネスも育っております。

こうした既存の集積技術の活用と先端技術産業の域内への導入、内発の促進を通じて、地域経済の活性化を図っております。このため経済基盤の整備、都市機能の充実、さらに次のような産業技術基盤の強化が計画的に進められております。

産学官交流は——

技術の開発・導入に際しては、多分野の技術の融合化が要請され、広島県では、全県的な産学官連携体制として、公益財団法人ひろしま産業振興機構を設立し、県東部においては当センターが、異業種間交流、産学官連携による技術開発、技術移転などの場の提供、企業ニーズに対応した人材の育成、経営管理、マーケティング機能の強化など推進し、平成14年には福山大学との産学官連携として「福山バイオビジネス交流会」を設立しました。

異業種間交流は——

近年、技術の融合化による新製品の開発が注目され、異業種間交流が活発化しており、昭和59年には、福山異業種技術交流研究会が発足し、また新しく半導体産業の立地を契機に電子産業関連企業交流グループも組織され、さらに、平成9年には、大手鉄鋼企業が保有する先端技術を活用し、地場企業の基礎技術の強化や新商品開発等を促進するため、「新製品・新技術開発交流会(愛称:LIFT21)」が設立されるなど、異業種間交流が活発化しており、技術開発に意欲的な企業が数多くあります。

試験研究機関は——

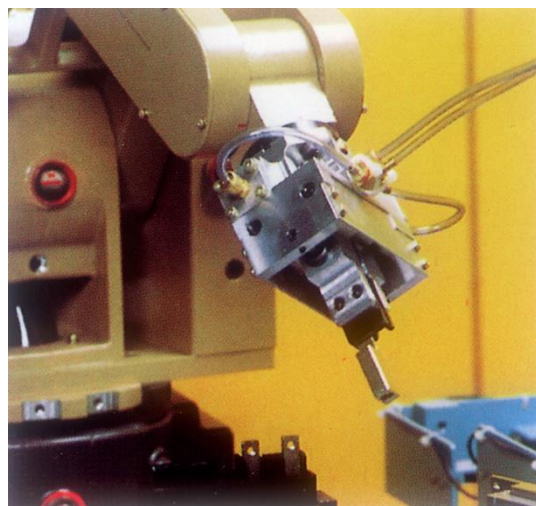
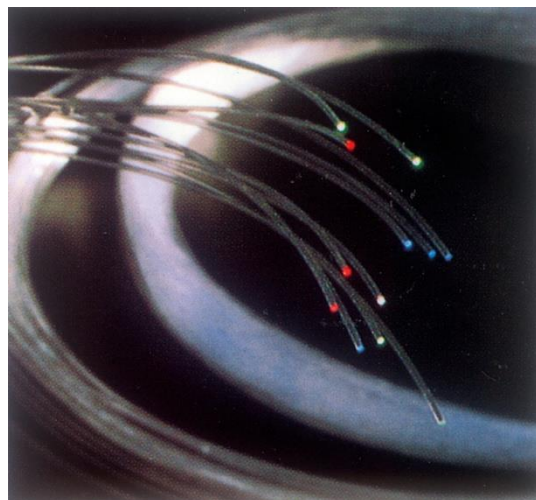
備後地域にある繊維・金属・工芸関係3試験場は、新たな時代に対応して統合強化され、昭和62年広島県立東部工業技術センター(現在は広島県立総合技術研究所東部工業技術センター)として開設し、技術振興の支援体制が確立しました。

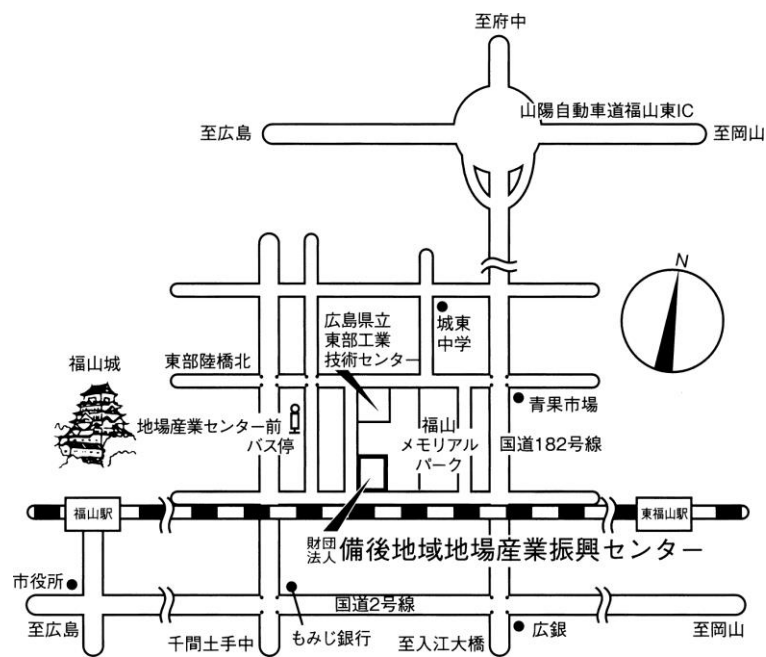
また、その他大学、大企業併設の民間試験研究機関がそれぞれ地域の技術振興のため支援体制にあり、地場産業にとって大きな支えとなっております。

その他——

産業構造を知識集約化の方向へ転換させ発展していくためには、人材の確保、養成が不可欠であります。大学・職業能力開発短期大学校や職業訓練機関、民間企業が連携し、創造力ある地場産業に貢献する技術者の養成をすすめるとともに、インターネットなど新情報システムの構築を図り、産業関連機関などと連携して全国情報の受発進をめざしております。

備後の地場産業は、地場産業振興センターを核として、こうした多くの機関、企業の有機的な連携・協力によって、新商品・新技術が産業化され、新たな時代への一層の発展が期待できます。





一般財団法人 備後地域地場産業振興センター

〒721-0974 福山市東深津町3丁目2-13
 TEL.(084)924-4510 FAX.(084)924-4665
 URL <http://www.bingojibasan.jp/>
 E-mail info@bingojibasan.jp